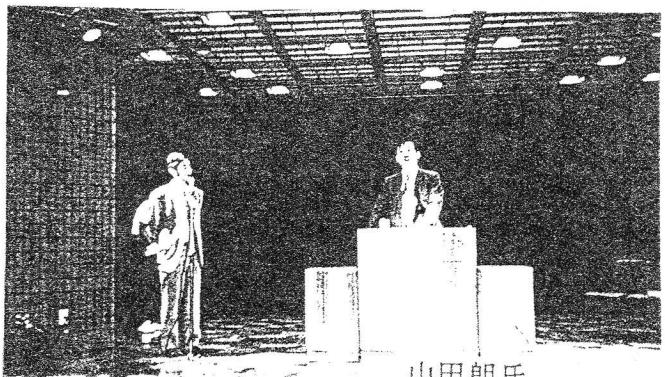


日吉台地下壕保存の会

会報

第34号

発行 日吉台地下壕保存の会
編集 事務局223 横浜市港北区下田町3-15-27
寺田方 TEL. 045-562-1282(年会費) 一口千円で、一口以上
郵便振込口座番号 00250-2-74921
(加入者名) 日吉台地下壕保存の会第3回「横浜・川崎
平和のための戦争展」風景

目次

ページ

| | |
|-------------------------------------|-----|
| 第3回「横浜・川崎平和のための戦争展」について ～御報告とお礼～ | 2 |
| 「平和のための戦争展」 アンケート（感想）集 | 3～5 |
| 運営委員会報告 | 5 |
| 会費納入のお願い | 5 |

連載日吉台地下壕

| | | |
|---------------------------|----|-----|
| 当時の関係者の思い出話 | 11 | 6～7 |
| 幹事会報告 | | 8 |
| お知らせ「95平和のための 戦争展かながわ」 | | 8 |

第3回「横浜・川崎平和のための戦争展'95」

95」を終つて

実行委員会より御報告とお礼の文書をいただきましたので、掲載いたします。

1995年7月20日

御賛同者各位

御賛同団体各位

横浜・川崎平和のための戦争展'95

実行委員会

第3回「横浜・川崎平和のための戦争展'95」について

~御報告とお礼~

暑い日が続いておりますが、皆様におかれましてはご健勝のこととおよろこび申し上げます。

去る6月6日～6月11日の第3回平和のための戦争展は、初日より連日大勢の方の御来場をいただき、成功裡に終えることができました。

これもひとえに御賛同くださいました皆様方のお力添えの賜物と、ここより厚く御礼申し上げます。

日吉台地下壕、登戸研究所ともに過去の戦争の事実を伝えるための大切な遺跡として、「ぜひ保存を」との願いを新たにいたしております。

これからもご支援のほどを、どうか宜しくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

下記の通り会計報告いたします。

収入の部

| | |
|----------|---------|
| 前回繰越金 | 73.975円 |
| 賛同金 | 192.320 |
| ナレバント参加費 | 23.500 |
| 資料代 | 26.300 |
| カンパ | 14.486 |
| 本・葉書手数料 | 14.160 |
| 合 計 | 344.741 |

支出の部

| | |
|-------|---------|
| 場所代 | 55.590円 |
| 運営費 | 49.864 |
| 事務通信費 | 32.650 |
| 印刷費 | 24.391 |
| 材料費 | 11.384 |
| 謝礼 | 80.000 |
| 交通費 | 40.000 |
| 合 計 | 293.879 |

次回繰越金 50.862円

「平和のための

戦争展

アンケート

(感想) 集

★戦争という残酷さが今にも過去を近づけるような思いがしました。一つの爆弾で何万ものかけがえのない命が奪われるは何のためでしょうか。

命を風船のように割つてもいいのでしょうか。私達は何も不自由のない時代に生れ、尚生活を続けています。昔は食糧不足に困つていたことでしょう。

ポツダム宣言の戦争は二度と起こさないという規則を守り、心豊かに「人類みな兄弟」という言葉のようにできたらいいなと思っています。

この展覧会は一つの心の変化の道につながつていると思います。

(10代女)

★昔、広島へ原爆について学ぶために行った事がありますが、その時と同じでどれもい感想はありません。

映画を見させていただいたの

ですが、今の自分がどれだけ幸せなのかが分りました。毎日の生活にいつも不満ばつかり言つてはいる自分が恥かしくなりました。これからは自分

の幸せばかりでなく世界の幸せになるような事を、みんな本当に考えなければいけないと思いました。(10代女)

★とても役立ちました。戦争の事についてもつと知りたいと思います。(10代女)

★最初、来るのはいやだったけど、母と一緒にきてよかったです。いろいろなことが分りました。(10代女)

★たのしかつた。これからは戦争をしてはいけないと想います。生々しくて、とつとも

氣持悪かつたけど勉強になりました。これからも話をしてください。(10代女)

★五年戦争について、現在では「知ろう」としないと、知らないで済む時代である。知らぬままに、香港やシンガポールに「買物ツアーナどに行き、大騒ぎをしたりする。「知らない」ことは悪意ではないにしても、とても恥かしいことです。

また、大体のことは知つても、まだまだ知らない、知らされていないこともある。この戦争に対する評価は一面的でないし、その人によつて異なる部分もあると思うが、事実を正しく知り、歴史を直視した上で、誤つたことは、誤つたと言える力を日本人ひとりひとりがつけなければならぬだろう。

★小島さんのお話は、戦争とはどんなにむごいものかよく示されていました。来年も開催してください。五〇周年で終つてほしくない展示

いことだと思いますが、事実を正しく伝えること、それが大切だと考えています。ノスタルジーに終らることなく。

(10代女)

★小島さんのお話は、戦争とはどんなにむごいものかよく示されていました。来年も開催してください。五〇周年で終つてほしくない展示

と思ひます。(30代女)

★身近な地域から、いろいろなことが学べる大切さを痛感させられました。自分の住んでいる地のことを正確に理解し、伝えていきたいです。

(30代女)

★松代と市ヶ谷の地下壕を見学しましたが、日吉にも立派なのがあったことは今日初めて知りました。もつと大勢の人が知るべきですね。

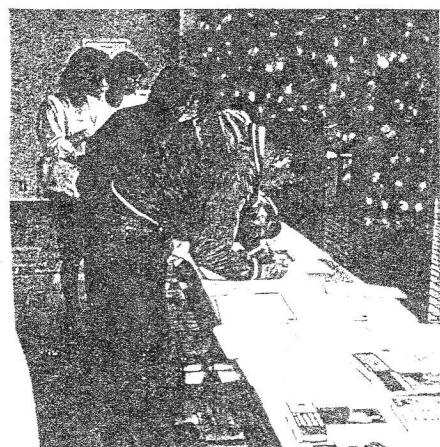
登戸研究所のパネルは名称を「オウム」に変えれば、その

(3)

まま現代の写真になってしま
いますね。恐ろしいです。

(四〇代女)

★登戸研究所と日吉台地下壕の保存はどのように進めていくか、難しい問題が多いと思う。まず、具体的に金銭的問題があり、スポンサーとして政治力は頼れない。保存が歴史的（政治上の）にメリットがあるか、という問題もある。市民運動をメディアに取り上げさせていくのが、当面の問題かも知れない。（四〇代男）



い企画をたてられ、驚きです。

(五〇代男)

★東京のことは常々聞いていましたが、神奈川の様子（特に日吉台）は初めて知った。学生が犠牲になつたことについては大変気の毒だと思う。

今、世間を騒がしているオウム真理教もこの戦争と同じようなことをしているのではないかと思うと恐ろしい。

(五〇代男)

★一ヶ月程の間に、何人もの方々の戦争体験、戦争責任の話を聞きましたが、小島さんの話には最も深い感銘を受けました。最初から聞くことができませんでしたが、極限まで追いつめられた兵隊の状況などほんとにひどいものだと実感しました。

それにもしても、いつも、すぐ

★シンポジウムに参加して展示より大切なイベントだと思

う。

日本人として知るべきこと、

知らねばならないことをしつかり知り、伝えなければなら

ない。これから日本を支える者が眞実を身につけ、世界

の中で生きる力量を發揮して欲しい。

(六〇代男)

★広いスペースでこれだけの展示ではもつたないが、内容はしつかりしていた。文字が小さく読みづらい。もう少し中学生位にもわかるようなやさしい解説を要所におき、わかりやすく展示して欲しい。

(六〇代男)

★綱島に生れ日吉に住んで三年、日吉の慶大の地下壕のことは薄々知っていたが、今回の戦争展を見て、良くわか

後は、中学生、高校生として、進駐軍とパンパンにあふれた街を、空腹をまぎらすためにさまよい歩いた日々を想うと涙さえてくる。

今、平和とはいえ、多くの犠牲者の上に物質的に繁栄した日本が、最近、オウムといいう狂人たちの毒物乱用におびえる様相は、戦争末期の登戸研究所と相通するものがあり、狂人たちは、戦争末期の登戸研

究所と相通するものがあり、平和というものの「もろさ」を危惧する気持になる。

このような展示と活動が、もつと強く世の中にアッピールされることが今こそ必要だと痛感する。

川崎市と本展の関係者、そして地下壕保存の会の方々に心から敬意と感謝の意を捧げたいと思います。（六〇代男）

★昭和一九年七月から学徒勤労動員（旧制中学三年）で、多摩川大橋を渡った所（大田

区矢口）にあつた海軍理工工場で働きました。

二〇年、米軍が焼夷弾を投下、多摩川大橋（当時は木造）は焼失して、ガス橋（当時は幅一・五m前後の吊り橋）を利

用しなければ対岸に渡れず、橋の重要性を知りました。

「ウォーキング・マップ平和川崎」と「日吉台地下壕」を読み五〇年前を思い出しました。

（六〇代男）

★私は戦争体験者ですから、かつてのことを思い出しながら見ましたが、あの頃、真相を知らず、國のあり方を批判することもなく流されたことを、今思い出して同じ過ちを繰返すまい、目をよく開いて眞実を見抜きおかしいことはおかしいといわなければ思っています。

日本にとつて利益にならない、世界の平和にも寄与しない米

軍基地に、日本が金と土地を提供していることの不都合を、もつと人々に考えて欲しいと思っています。

いろいろ改めて考えさせられましたこと、ありがとうございました。

（六〇代女）

★戦後五〇年のこの期に、しつかりと戦争の無意義を歴史として残していくかなければ成らないと思う。

アジアの人々への陳謝と反省、「侵略」であつたことを認めるべきです。

学童疎開体験を若者に伝えていきたい。八月に「伝える会」で話します。

写真で訴える方法は効果的です。日吉の壕の長さに驚いています。

法政二高の学生は良く取り組みましたね。他の学校も授業の一環として、戦争展、平和展を見学するとよいと思いま

す。

（六〇代女）

★一日（日）午後より参加させていただきました。主人

も二度（日支事変、大東亜戦

争）も応召し、大陸へ渡らせられた人間ですが、終戦の時

は、現地の農家の老婆さんに助けられて（干飯を沢山作つてくれました由）上海まで四

〇日歩いてきて、無事日本へ帰国できました。私共のこれ

は小さいけれど自慢の一つと

して若い人達に常に話して聞かせております。

大変結構な催しに参加させて

いただき有難う存じました。

明年また私共も生存しておりましたらお目にかかるせて下

さいませ。先生方のご盛栄を

お祈り申し上げております。

（七〇代女）

* * *

本年度の会費をお送りください

るようお願いいたします。

連合会事務局、会報生口

六月二六日六時半、

藤山記念館

議事

▼地下壕保存の陳情について

*神奈川県及び横浜市に陳情

するため署名を集めること

については、兼ねてより検討

し、陳情書の文案も練られて

きている。本年は終戦五〇年の

節目の年であること、本年

三月遺跡などの保存について

いために、運営委員会で最

終的に検討すると言つことで

あつたが、欠席者が多く、会

長、副会長に文案の検討と時

期について一任することになつた。

日本にとつて利益にならない、

世界の平和にも寄与しない米



連載

日吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 11

日吉の日々 3

軍令部にいた増井氏のお話
を伺います。

増井潔氏の話

(ききて・寺田貞治)

昭和一八年五月に軍令部に
転勤になり、最初海軍省の二
階にいた。その頃軍令部第三

部は十数人で、予備士官の西
中尉（慶大出身・後期連載予
定の「夜光虫事件」の主人公）
はまだいなかつた。吉川とい
う囁託の人があつた。真珠湾の
丘の上に住み、艦船の情報を
つかんで通報していた人で、
外務省の書記官の名目でハワ
イ大使館にいたが、開戦と同
時に大使館員交換船で実松氏

と共に日本に帰つて來た。

昭和一九年二月に軍令部第

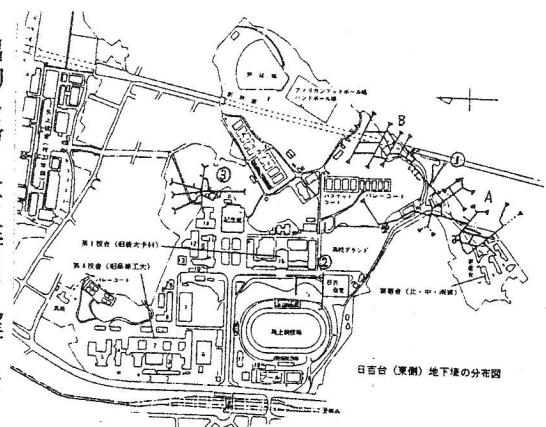
三部は日吉の現高校校舎に入
つたが、寒い時期だったので、
床に板を張つた。軍令部第三部が日吉に最初
に來たが、その後、海軍のい
ろいろな部署がやつて來た。海軍施設部隊が地下壕を掘
り始めたのはノルマンディの
上陸後（一九年六月頃）であ
る。フィリピンに出張を命ぜ
られた（後述）のでよく覚え
てゐる。第三部は二〇年の始め頃地
下壕1のBに入り、終戦の日
までそこでずっと仕事をして
いた。地下壕の中は湿氣が多
く、ポタポタと水滴が落ちて
来るのを避けて机をおいた。
時々机の上に毛布を敷いて泊
り込んだこともある。軍令部
は官舎だから九時から始まり
五時に終るが、大抵九時前に昼はカツレツ・コッペパン・
コーヒーが出た。海軍省士官

室で食べた。

日吉に移つてからは、食事
が少し悪くなつたが、二〇年
に入つてからは更にひどくな
つた。昼食に豆力スのスープ
などが出て、よく身体をこわ
した。サイパンにいた時は二
〇貫あつた体重が、一四貫に
減つてしまつた。帰りが遅く
なると夜食におにぎりがでた。
パンのことも時々あつた。

昭和一九年四月二十四日の空

襲で大森の家が焼け、近くの
親戚の家から日吉まで通うこ
とになった。昭和二〇年四月
二九日朝、重要書類を持って
日吉に向つた。日浦線が爆撃
で不通のため省線で横浜にで
たが、空襲警報で東横線は不
通、しかたなく横浜線で菊名
に行こうと東神奈川に來たと
ころで、横浜線もストップし



た。京浜急行のガード下に避ついてきた。公園のある運河に行くと人々が避難してきた。階級が一番上なので陸海軍の兵隊だけ集めて各倉庫に配置した。倉庫が燃え出し熱くて仕方がないので運河に入ると、皆真似をした。倉庫が全部焼けて自然鎮火したので、河から上がり鶴見方面に歩いた。焼けた人々がゴロゴロしていった。靴を履いている人は、年寄り・子供をおぶつて歩いた。水道管が出ていれば短剣で切つて水を飲んだ。軍のトラックが来たので大森海岸まで便乗した。

実松氏は「米国は嘘を言わない。艦船部隊がどれだけの兵力を持っているか正しく掴むことが第一だ。君にそれをやつて貰いたい」と命令された。

の搭乗員から情報を取つてこい」と言われた。特務班の中尉と佐々木嘱託（米国にいた二世）が同行した。

文書を読み出すと參謀長の顔色が変ってきた。「便を仕立てるから飛行機でダバオの司令部に行つてもらいたい。書類を書くから白田司令官に手渡して欲しい」と言われ、二日後にダバオに行くと、車が迎えてきていた。知つてい

が迎えにきていた。知つてゐる主計長がいたので、ここでも無事に司令官に書類を渡すことができた。書類はダバオでB17を撃墜し、捕虜にした一人を軍医少佐が試し切りにしたというものであつた。事の次第は軍法会議にかけられ

たが、後はどのようになつた
か不明である。

B 17の一番上の階級の捕虜
がダバオの病院に入院してい
たので、尋問し、情報の空白
部分を埋める大きな成果を得
た。帰国後、実松氏に報告し
た。すでにこの頃、上層部の
まともな軍人であれば、負け
るのは必至と思つていた。

戦争末期、お寺で予備士官
に情報の指導をした。彼らは
各部に情報部員として配属さ
れていた。最後に入つた予
備士官の五九名は一ヵ月教育
の後、配属され「むらくも隊」
と呼ばれた。竹内第五課長
(対米情報担当)から「いざ
となつたら諸君も散らなければ
いかな」と言われ、その
時は「むらさめ隊」と呼び合
おうと言つていた。

幹事会△云却報出口第一回
五月一〇日一八時半
日吉地区センター
議事
▼平和のための戦争展について
*五月一〇日四時より川崎市
平和館下見、六時より同館にて実行委員会。最終打合せとなるので多数出席をお願いします。

幹事会△云却報出口第二回
七月一八日二二時
ブルーベア
報告
一、三月一六日筑波大付属駒場中学の先生と生徒による見学会七名参加
二、四月八日JR東労組山手電車区による見学会八名参加
三、同一五日壱保存の会総会三〇名参加
四、同二七日平和のための戦争展実行委員会開催
五、五月一〇日幹事会開催
六、同一九日JR東労組神奈川車掌区による見学会七名参加
七、同二〇日平和のための戦争展実行委員会開催
八、同二七日平和のための戦争展イベント・地下壕見学会三五名参加
九、同二八日郷土教育全国協議会下丸子サークルによる見学会一三名参加
一〇、六月一日川崎市職員労組による見学会二七名参加
一一、同三日平和のための戦争展示物搬入、準備。
一二、同四日平和のための戦争展示（渡辺先生関係のイ
ベントがあった）
一三、同六日（一）一日平和のための戦争展展示
一四、同一〇日（二）一日平和のための戦争展の講演会、朗読、シンポジウムなど開催
五、五月一〇日朝日カルチャーニの講座「戦争を現体験する」による見学会一八名参加
六、同二四日慶應生協学生委員会による見学会二二名参加
七、同二六日保存の会運営委員会開催
一八、七月九日川崎市ふれあい館「成人学級」による見学会七名参加
一九、同一四日JR東労組神奈川電車区・車掌区による見学会一五名参加
二〇、同一五日JR東労組鶴見支部による見学会一九名参加
議事
▼「第三回横浜・川崎平和のための戦争展95」の御報告とお礼について
*2ページ参照
▼「95平和のための戦争展かながわ」について

~~~~~  
「95平和のための戦争展 かながわ」

日時：1995年8月11日（金）13時～21時  
12日（土）10時～21時  
13日（日）10時～19時

場所：鎌倉芸術館ギャラリー

大船駅下車（JR東海道、横須賀、根岸、湘南モノレール）

主催：同展実行委員会 委員長：弓削 達（フェリス女学院大学長）

展示内容：戦争と教育、思想・宗教の統制、私の街から戦争が見え

る（日吉台地下壕ほか）、戦時下の市民生活、船と戦争、

日本の侵略、広島・長崎の被曝、安保と基地など

多数の方々のご来場をお待ちしています。



\*保存の会として参加する。  
お手伝い頂ける方ご連絡ください。  
▼「95平和のための戦争展かながわ」について